

花づな

hanazuna 2015.1

vol.
38

[花づな]

四季折々に咲き競う花々は、精いっぱい自分を自分らしく表現しているように見えます。男女が明るい未来に向かって手をつなぎ合うことを「花づな」の名に託しています。

特集

仕事と家庭、自分らしく生きる



仕 事と家庭、どちらも自分にとっては大切なことであり、何かを犠牲にすることなく、自分らしく生きたい。そう考える女性が増えています。ずっと自分らしく働き続けるために、すこし立ち止まって考えてみませんか？

仕事と家庭。どっちも大切。 バランスをとりながら 自分らしい生き方をしたい!

時代の変化とともに、女性の働き方も多様化しています。今回の「花づな」では、自分らしく働きながら、育児・家事・介護に取り組んでいる3人の女性たちをご紹介します。時間的制約の中で、ちょっとした工夫や気持ちの持ちよう、周囲の協力を得て仕事を続けている3人。彼女たちの言葉から、何かヒントが見つかるかもしれません。



- 聴く専門家(心理カウンセラー)
- 東三河セーフティネット副代表理事

金田 文子さん

Ayako Kanada

★金田文子さんのプロフィール★

「クライアントは小2から80歳まで」と語る心理カウンセラー。子ども・若者の相談から企業内研修、うつからの復帰支援、講演など、広範囲の仕事も好奇心でこなす活力あふれる人。事務所は一見、老舗の喫茶店風。扉を開けると、やさしい笑顔が待っています。

「大人は大人であることを楽しもう」

● 覚悟は必要

仕事上、毎日さまざまな人と出会いますが、いつもその人のもつ世界に好奇心がわきます。対話を重ねることで知らない世界を見せてくれるのがいい。最初は「ひとこと言葉を出すのに2週間かかった」という若者が、独り立ちできた時に「話せて嬉しかった」と言ってくると、こちらも嬉しくなりますね。

女性が働くには、やはり覚悟が必要だと思います。子どもがさみしい思いをしているかもしれない、学校で忘れ物などをした時、十分関われない自分のせいだと思うかもしれない。そんな時にも最善を尽くす覚悟です。そして限られた時間の中で子どもと一緒にいろいろな場所へ出かけ、たくさんの人と交流したりしました。

娘が小5の時に独立して仕事を始めました。それまでは会社員。「子連れ残業」もしていましたよ。振り返ると、子どもの成長と共に私の働き方も変化していますね。

● 子どもと仕事の話しよう

子どもには、日頃から自分の仕事の話をした方がいいと考えています。自分のやっている仕事の役割や使命感とか、今日こんな人に会ったという話でもいい。子どもが大人になることを楽しみにできるように、私たち大人が仕事も含めて日々の生活を楽しむことが大切だと思います。私の娘にとって大人の代表が私。大人になると大変なこと以上にワクワク楽しく面白いことがいっぱいあるんだということを示したいですね。

● 仕事の許容量を把握する

子育てが終わる時期に、親の介護が…ということも。私も数年前から両親の介護が必要になりました。最初は気力ががんばれても、身体も時間も限界があります。両親への申し訳なさや折り合いを付けながら、今では訪問介護などのサービスに頼っています。

女性が気持ちよく仕事を続けるためには、自分の「働きたい」意思を明確に持つことと、自分の許容量を知ることが大切です。環境や状況に変化があった時も自分が工夫することで、しなやかに乗り越えたいですね。



▲事務所の前で

「プライベートは…」

休みの日は自転車で浜名湖沿いを走ったり、新城で山歩きをして温泉に入ったり。雨が降ったら映画を観に行ったりと、自分の時間を楽しんでいます。



★下嶋由香さんのプロフィール★

幼い頃からモダンバレエ、ヒップホップなど、踊ることが大好き。出産後、ベリーダンスの魅力と出会い、インストラクターとして活躍中。昼間はWEBデザイナーの仕事もこなしている。小学生の男の子2人のお母さん。

- ベリーダンス講師
- WEBデザイナー 下嶋 由香さん

Yuka Shimojima



「好きなことを仕事にできて幸せ！」

●休みでも早く仕事したい

独身時代はOLでしたが、結婚・出産後にWEBデザイナーの勉強を始め、現在は市内のWEB制作会社でホームページ制作をしています。また同じ頃趣味として始めたベリーダンスにはまったことがきっかけで、インストラクターになりました。子どもの頃から踊ることも絵を描くことも大好きだったので、好きなことを仕事にできて、こんなに幸せなことはありません。長い休みが続くと「早く仕事したい!」と思ってしまうほど。仕事が嫌だと思ったことが一度もないんですよ。



●子どもから教えられた可能性

きっかけは、子どもを産んだことかもしれません。赤ちゃんの人生はこれからで、選択肢は限りなく広い。自分の人生は3分の1を過ぎたけれど、ここで自分からあきらめてしまったら終わり。まだまだやれる、チャンスをつかめるんだと、子どもから教えられました。小学生になった2人の息子には「お母さんはこんなにがんばって練習しているから、ベリーダンスの舞台に立てるんだよ」って、

言葉ではなく、日々の練習やトレーニングする姿から見せています。同時に、自分自身も励ましているんですけどね(笑)。

●週に1度の「母ちゃん塾」

夫は子どものサッカーチームのコーチとして一緒にサッカーを、私は日本拳法担当と分担して送り迎えやサポートをしています。さらに週に1回、月曜日は「母ちゃん塾」と称して、私が勉強を見る日と決めています。一緒に勉強しながら、教えられる間は続けようと思います。

食生活に気をつけたり、しっかり睡眠をとるようになってから、風邪をひかなくなりましたね。ダンスで日々身体を動かしていることも健康を維持する上でプラスになっていると思います。忙しい日々ですが、ほぼ毎日手作りのごはんです。食生活で子どもたちの健康管理も意識しています。

＼プライベートは…／

和食が大好きで、魚は一匹買っておろして食べることが多いです。でも生きている魚にさわれないのでそれを克服すべく、子育てがひと段落したら流行りの釣りガールを目指して釣りを始めてみたいな、と思っています。



- 大三紙業株式会社
- 生産管理部 生産計画係 係長

中川 共兄さん
Tomoe Nakagawa

★中川共兄さんのプロフィール★

食品包装資材の印刷を手がける会社で、生産管理の仕事に携わる中川さん。正社員としては2人目の育児休暇を取り、男の子を出産。昨年春より仕事に復帰し、係長と母親業の二役を、持ち前の明るさで乗りきっています。

「周囲に働くママ仲間を増やしたい」

●想定外の日々

出産の1カ月前まで仕事する予定が、切迫流産や帝王切開など、妊娠・出産は想定外のことが続きました。幸い、同じ課に働くママさんが多かったので、いろいろ助けてもらいました。

いま子どもは2歳になり、毎朝元気に保育園に通っています。朝7時半からの勤務なので保育園への送りは同居の母に、迎えは夕方4時半に退社する私が行っています。職場と自宅の距離が近く、周りのサポートにも恵まれているので、今のところはスムーズにっています。



●子どもは待ってくれない

うちの子は食欲旺盛で、お腹が空いたら待たなし(笑)。保育園から帰ってきたら、慌ただしく食事の準備に取りかかります。食材は休日にまとめて買いをして、冷凍したり下味をつけておいて、夕食をサッと作れるように工夫しています。

以前より責任がある立場になったので、健康に気を遣うようになりました。当たり前のことですが、決まった時間にちゃんとご

はんを食べて、睡眠時間をたっぷり取る。これが、健康を保つ秘訣のような気がします。

●ゴミ捨ては夫の担当

夫は早朝に出勤し、夜の帰宅も9時か10時。平日の家事協力は難しいのですが、ゴミ捨てだけは彼の担当。ただゴミ収集所に持っていただけじゃなく、家庭内のゴミ分別まできちんとやってくれるので助かっています。平日に子どもとふれあえない分、休日は丸1日中一緒に遊んでいます。

フルタイムの仕事しながらの子育ては大変じゃないかと躊躇する女性が多いのですが、やってみなければ分かりませんよね。私の場合、会社や周りの環境に恵まれていることもありませんが、自分の子育ての話が少しでも参考になればうれしい。働くママの仲間が増えてくれればいいなと思います。

＼プライベートは…／

子どもの頃から習っていたエレクトーン。仕事が忙しくてやめていたのですが、育児休業中にまた弾きはじめたら、楽しくて。エレクトーンを息子と一緒に弾くのが夢です。

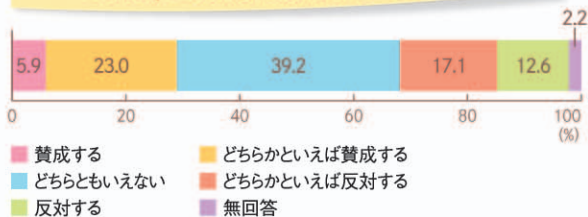


結果が出ました!

男女共同参画に関する市民意識調査

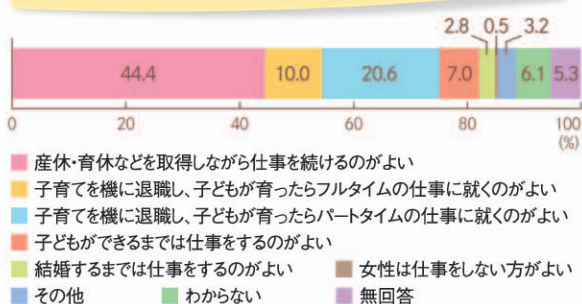
豊橋市では「男女共同参画社会」の実現をめざして、豊橋市男女共同参画行動計画を策定するなど、さまざまな取り組みを行っています。平成26年9月には、豊橋市内在住で20歳以上の方3,000人を無作為に抽出し、男女共同参画に関するアンケートを実施しました。アンケート結果の中から、今回の花づな特集に関連する項目を抜粋してご紹介します。

Q 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。



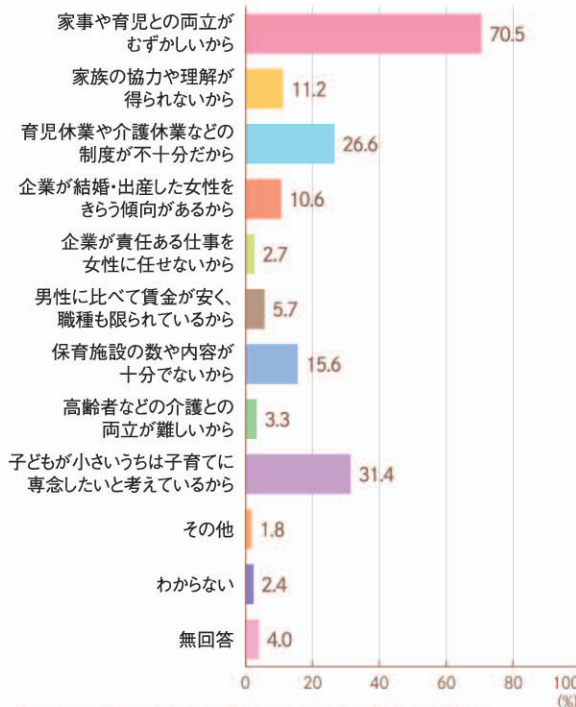
約3割の人が、「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対しており、「どちらともいえない」と考える人の割合が最も高いです。

Q 女性が仕事をする事について、どのように思いますか。



「産休・育休などを取得しながら仕事を続けるのがよい」と答えた人の割合が最も高くなっています。

Q 結婚や出産を機に仕事をやめる女性がありますが、その理由は何だと思いますか。(主な2つを選択)



女性が仕事をやめる理由として「家事や育児との両立がむずかしいから」と答えた人の割合が最も高くなっています。

豊橋市では、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、賛否がほぼ同数に分かれています。一方で「女性が仕事をする事」には肯定的な人が多くなっています。多様性に富んだ活力ある社会に向けて、あらゆる分野で女性の参画が求められている今、女性の働き方について、家族の中で話題にしてみてもいいかもしれません。

インフォメーション

募集中

女性の再就職応援セミナー ～復帰を不安に思うあなたへ!～

全2回

「仕事と家庭」を両立させるための法的支援制度や就職に有利な情報を紹介。また、上手なお金の貯め方について学びます。

講師 ● 菅田芳恵さん(社会保険労務士、ファイナンシャルプランナー)

と き ● 平成27年2月3日①と10日②、10時から11時30分まで
 ところ ● 男女共同参画センター「パルモ」(神野ふ頭町ライブポートとよはし内)
 対 象 ● 女性
 定 員 ● 20人(抽選)
 受講料 ● 無料
 託 児 ● 6カ月～未就学児、予約制、1人200円必要
 申し込み ● 1月26日③までに、市役所市民協働推進課
 ☎0532-51-2188

(お申込みQRコード)



男女共同参画社会を目指す情報紙 花づなvol.38
 発行年月/平成27年1月
 発行・編集/〒440-8501 豊橋市文化市民部 市民協働推進課

[ご意見・ご感想をお待ちしています]
 電話 0532-51-2188 ファクス 0532-56-5128
 E-mail shiminkyodo@city.toyohashi.lg.jp